

論文審査及び最終試験結果報告書

課 程 博 士	地域社会研究科 地域社会専攻 地域政策研究講座		
学 籍 番 号	1 5 G R 1 0 4	氏 名	葛西 崇文
審 査 委 員	主 査	増田 貴人	
	副 査	平井 太郎	
	副 査	土井 良浩	

(論文題目)

視覚障害条件下における組み合わせ図形の触運動知覚に関する研究

(論文審査の要旨)

視覚が妨害された条件下では、外界からの情報入力を視覚以外の他の感覚を用いなければならないが、触運動知覚に焦点をあてたとき、幾何学図形を単純に2つ組み合わせただけでも、視覚と同じように知覚できないことがあることは1930年代から指摘されてきた。そして視覚と同じように触運動知覚できる α 型文節になるか否かについて、どのような要因で決まるかは未だ明らかにされていない。本研究はこれらの問題に着手しようとしたものである。これらは、触地図・触知案内図や手で見る絵本など視覚障害者への情報提供・地域参加促進にもかかわる基礎的課題ともいえる。

本研究は、組み合わせ図形の触運動知覚における研究の背景概観と目的にあたる第1章、 α 型文節を規定する要因について皮膚接触の必要性(研究1)や手指動作や接触場所(研究2)といった外的要因からアプローチした第2章、どのように考えて組み合わせ図形に触ったか内的方略の活用(研究3・4)の観点から検討した第3章、全体を総括した第4章、で構成されている。

本研究にて、 α 型文節を規定する要因は、外的要因から明示することが困難であること、そして仮説検証方略を活用しかつ視覚化方略を用いない内的方略を採用することが示された。

(最終試験結果の要旨) 最終試験実施日：令和3年2月6日

本研究は、視覚と同じように触運動知覚できる α 型文節になるか否かについて、どのような要因で決まるかを内的方略の側面から明らかにした基礎的研究として、今後の視覚障害者の地域参加促進における有益な示唆を提供すると考えられ高く評価できる。

公開審査会・最終試験において議論・指摘された点はいずれも本研究を今後さらに発展させるための課題として位置づけられるものであり、主査及び副査の協議により全員一致で合格が適当と判断された。